

### ■特長

- ・特殊な変性エポキシ樹脂を使用しているため、各種素地によく浸透します。
- ・ぜい弱素材の表面を補強するとともに、すぐれた付着性を発揮します。
- ・水分や炭酸ガスの浸入を防ぎ、コンクリートなどの中性化を防ぎます。
- ・溶解力の弱い溶剤を使用しているため、旧塗膜を侵しにくく、活膜状態の各種旧塗膜に直接塗装が可能です。
- ・においがマイルドなため、周辺地域や作業者の環境にも配慮した塗料です。

### ■被塗物素材

- ・コンクリート、モルタル、フレキシブルボード、窯業系サイディングボード、けい酸カルシウム板、住宅用化粧スレート（各種新屋根材）など。〔新設、塗替えともに使用できます。〕
- ※・旧塗膜の種類によってはリフティングをおこなうことがあります。塗装前に試し塗りを行ってください。
- ・アスファルトシングル材、乾式コンクリート瓦（モニエル瓦、スカンジア瓦など）、粘土瓦（いぶし瓦、釉薬瓦）への塗装は避けてください。

### ■製品要綱

種類・色彩	透明
主な用途	屋内外の各種建築物壁面、屋根などの塗り替え改修用、新設塗装用のシーラーとして
容量	主剤：12.5kg、硬化剤：2.5kg
配合比	主剤：硬化剤 = 5：1
標準塗付量(kg/m <sup>2</sup> ・回)	0.08~0.13
標準塗布面積(m <sup>2</sup> /15kgセット・回)	115~187
希釈剤	塗料用シンナー
希釈割合 (重量%)	ハケ・ローラー 0 (通常不要)
	エアレス 0 (通常不要)
標準塗装回数	1
可使用時間	(5℃) 10時間 (23℃) 7時間 (30℃) 4時間
指触乾燥時間	(5℃) 1.5時間 (23℃) 1時間 (30℃) 45分
塗り重ね可能時間	(5℃) 8時間以上7日以内 (23℃) 4時間以上7日以内 (30℃) 3時間以上3日以内
光沢	—
特化則該当物質	主剤：該当物質なし 硬化剤：該当物質なし
有機溶剤表示	主剤：第3種有機溶剤等 硬化剤：第3種有機溶剤等
消防法による危険物区分	主剤：第4類 第二石油類（非水溶性） 硬化剤：第4類 第二石油類（非水溶性）
材工価格（2022年10月現在）	¥800.-/m <sup>2</sup> （当該製品のみ・300m <sup>2</sup> 以上）

### ■使用上の注意事項

- ・塗料はよくかき混ぜ、均一にしてから使用してください。
- ・塗装作業中および乾燥中は換気を十分行い、その後も塗膜が完全に乾くまでの間は、ときどき換気を行ってください。
- ・塗る面のゴミ、かび、こけ、油分、枯葉などの汚れや、はがれかかった塗膜はよく取り除いてください。
- ・塗装中および塗装後24時間は5℃以下にならない場所で使用してください。また温度が85%以上の場合は塗装を避けてください。
- ・絶えず結露が発生するような場所、用途での使用は避けてください。
- ・降雨、降雪、強風などの場合、または天候不良が予測される時は外部の塗装を避けてください。
- ・新しいコンクリート、モルタルなどのアルカリ質素材は、含水率10%以下、pH9.5以下になるまで十分に乾燥させてください。
- ・吸い込みの著しい部材については、標準塗付量より多くなる場合があります。シーラー塗装は「ぬれ感が出るまで」を目安に塗装してください。
- ・シーラー塗装後、塗装仕様の塗り重ね可能時間よりも早く上塗り塗装を行うと、ちぢみ、ひび割れ、塗膜不良を起こすおそれがありますので、塗り重ね可能時間は守ってください。
- ・下塗り乾燥後、素地との付着性をガムテープなどで確認し、はがれが認められる場合は再度下塗り塗装を実施してください。
- ・新屋根材などで軽度の不陸がある場合は、下地調整材としてロック水性プロテクトルーフ サフを使用してください。
- ・素地が濡れている時は塗装を避け、乾いてから塗ってください。また直射日光などで極端に熱くなっている時は、少し冷やしてから塗装してください。
- ・乾燥過程で霜、夜露などの影響を受ける時間帯や、昼と夜の温度差が大きい時期は時間を考慮して塗装を行ってください。
- ・希釈には必ず塗料用シンナーを使用してください。また必要以上に希釈するとたれや色分かれの原因になります。
- ・塗装用具の洗浄にはラッカーシンナーを使用してください。
- ・硬化剤は必ず専用硬化剤を使用してください。他の硬化剤を使用すると仕上がり外観、塗膜性能に悪影響を及ぼします。
- ・硬化剤を配合した塗料は、時間の経過と共に増粘・固化して使用できなくなります。配合した塗料は可使用時間内に使い切ってください。
- ・夏場の高温時は硬化反応が著しく速まるため、塗り重ね間隔はあまり日数を置かず速やかに実施してください。
- ・上塗り塗料に合成樹脂調合ペイントや1液弱溶剤型塗料は使用できません。
- ・標準塗付量は塗装時のロスを考慮に入れた数値です。素地の状態、気象条件、塗装方法などによって異なる場合があります。
- ・取扱の際は製品容器の注意書き、製品カタログおよび安全データシート（SDS）をよく読み、注意事項を厳守してください。

本内容は予告なく変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。